

かんなくずには魅力がいっぱい！
「木り絵作家 小河原いづみ」



皆さんは、この作品の素材が何だか分かりますか？
答えは『かんなくず』です。このかんなくずに「出会ってしまった」と語る、中原区木月にお住まいのアーティスト、小河原いづみさんにお話を伺いました。

『木り絵』誕生

かんなくずとは、鉋(かな)で材木を削ったときに
出る薄い木くずのこと。小河原さんは、自宅改築時に
昔ながらの大工さんが木を削るのを見て、「キラ
キラしてきれい！」とかんなくずに一目ぼれ。「何かで
きないかな。紙みたいだから切り絵かな」と、試しに
家にあったペン型のカッターを使って切ってみたど
ころ、偶然、割れることなく上手に切れて、かんなく
ずの可能性に夢中になっていきました。



▲「いろいろな『やってみ
たい』が生まれてしまう
ので、いまだ実験中」

最初のうちは失敗ばかり。水
で保湿すると切りやすいけれ
ど割れやすい、オイルを使うと
良さそう。切る時には、かんなく
ずをそのまま切ると木目で
割れやすい。下絵を上重ねて
切ってみると、木目が保護され
て、紙を切る感覚で切れる。試
行錯誤を重ね、かんなくずア
ート『木り絵』のスタイルが出来
上がっていきました。

職人さんとの二人三脚

作品用のかんなくずは、厚過ぎると割れやすい、薄
過ぎると切りにくい、本当に繊細です。0.1ミリとちょ
っとという小数点以下の世界で、「このくらい…、い
や、このくらいで」と職人さんに削り出してもらって
います。職人の皆さんの協力がなければ、アート作品
としての『木り絵』は制作できません。「日本の伝統技
術には驚かされるのがいっぱいです。快く助けてく
ださる皆さんにいつも支えられています」と、小河原
さんの言葉には感謝と敬意が込められていました。

かんなくず温泉

かんなくずを温泉の湯に見
立てた『かんなくず温泉』は、
小河原さんが東京藝術大学の
「DOOR」という「アート×福
祉」をテーマとしたプロジェ
クトの3期生として学ぶ中で
誕生しました。木材加工場の
協力を得て、全て国産の木材
(主に杉と檜、時にはヒバなど
も)のかんなくずを使っているこの『温泉』は、「どな
たでも」をコンセプトに、何度もワークショップを重
ねて作り上げました。小河原さんは、車椅子の方が介
助なしで、ワーツと楽しそうにこの中に入っていた
のを見て、「出来上がった」と感じたそうです。文字通
り木の香りと温もりに包まれる『かんなくず温泉』、想
像するだけでよい香りがしてくるような気がします。



▲はしゃぎながら入浴もよし、
静かに話し込むもよし。

五感に訴えるかんなくずの素材力

小河原さんは、かんなくずの魅力を次のように語り
ます。「こんなに薄くても、きちんと木の板なんです。
柔らかくて触っていて気持ちいいし、裂く時に出る音
も心地よく、香りにも癒されます。木目の美しさには
1分の1ゆらぎ(人が自然とリラックスできるゆらぎ)
があるそうですよ」。作品を作りながら、小河原さん自
身も癒されているのだとか。

また、かんなくずは紙と違っ
て端で手を切ることもないの
で、お年寄りのリハビリや障が
いのある子どもたちにピッタリ
な素材ではないかと、簡単にで
きる工作のワークショップも開
催しています。



リースと
お花

「こんなに良い材料が捨てられてしまうのはもっ
たいない。なんとかしたい」と、精力的に活動してい
る小河原さん。地元商店街のイベントなどへの参加、
支援学校での授業も行っています。生涯学習プラザで
も、ウェルカム・ギャラリーの展示にご協力いただき
ました。展示期間中は、足を止めて作品に見入る方が
とても多く、来館者の心を癒していただきました。

展覧のお知らせ

テーマ 『ひなまつり』

日にち 2024(令和6)年3月8日(金)・9日(土)

会場 梶本銘木店(世界の優良銘木展示場)1階

東京都江東区新木場1-17-72

(新木場駅から徒歩5分)

ホームページ <https://kirakuan.com>



木り絵作家 小河原 いづみ

メールアドレス

kiriefeuille@yahoo.co.jp



Instagram
見てね